

# 平林地域 住民アンケート 分析レポート

～結果から何ができてくるか？～

平成29年11月  
NPO法人 都岐沙羅パートナーズセンター

## 平林地域

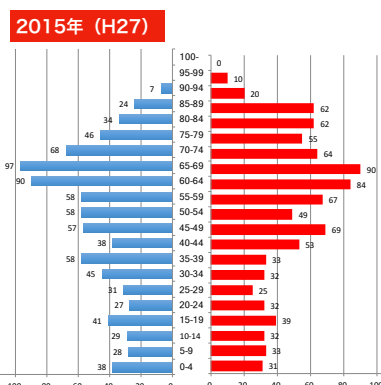
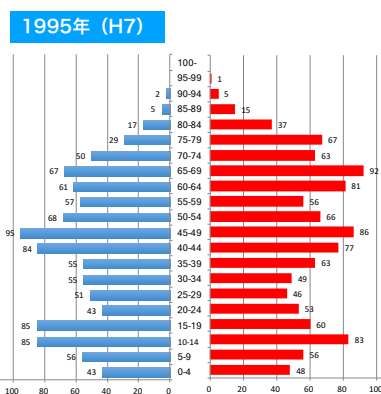
国勢調査データから見る過去20年間の人口推移

	← 国勢調査データ →				→ 独自推計値	
	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年※
総人口 (人)	2,112	2,289	2,162	1,946	<b>1,816</b>	<b>1,673</b>
	20年間で14.0%減少				▲ 143	
0～14歳 (人)	371	345	273	212	<b>191</b>	<b>202</b>
	20年間で48.5%減少				11	
15～64歳 (人)	1,291	1,372	1,310	1,148	<b>986</b>	<b>813</b>
	20年間で34.6%減少				▲ 173	
65歳～ (人)	450	572	579	586	<b>639</b>	<b>658</b>
	20年間で42.0%増加				19	
高齢化率	21.31%	24.99%	26.78%	30.11%	<b>35.19%</b>	<b>39.33%</b>
(再掲) 75歳～ (人)	178	251	317	332	<b>320</b>	<b>310</b>
(再掲) 85歳～ (人)	28	46	71	91	<b>123</b>	<b>113</b>

※国勢調査データを基に都岐沙羅パートナーズセンターが独自に推計した数値

(参考) 2015年の高齢化率 新潟県平均：29.85%/全国平均：26.63%

平林地域の人口ピラミッドの推移



平林地域も急激に少子高齢化が進展している！

# 中学生以上の全住民アンケートの実施

神林地区の5つのまちづくり協議会が同時に実施。

## 【平林地域】

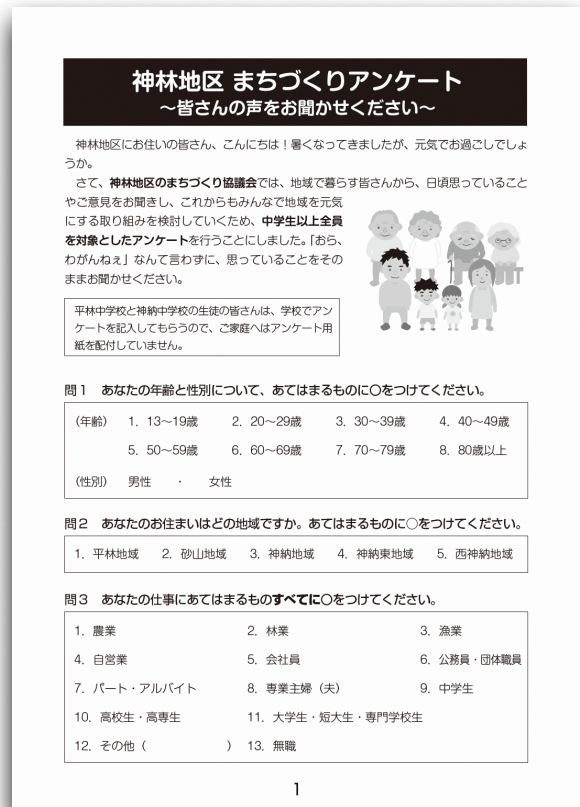
配布数：1,685通

回収数：1,249通

回収率：**74.1%**

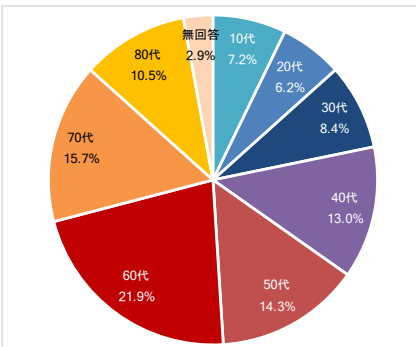
かなりの高回収率！

↓  
地域住民の意向がしっかりと反映されているデータである

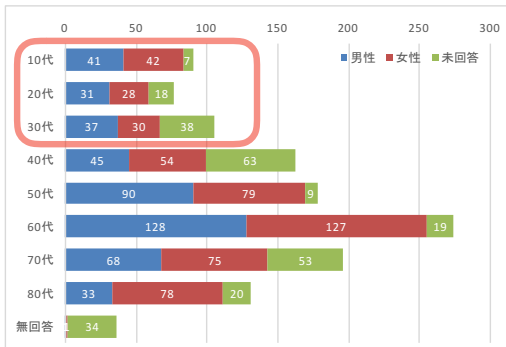


## 回答者属性

回答者属性（年代別）



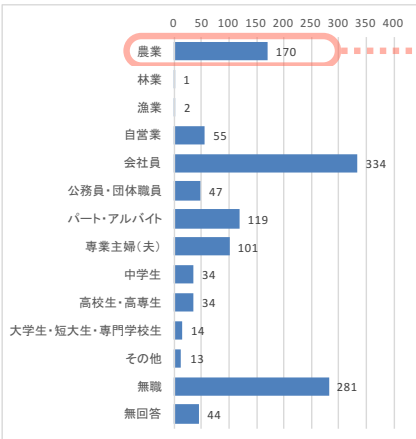
回答者属性（年代別×男女別）



若者・中堅世代は少数派。多数決では年配層には叶わない。

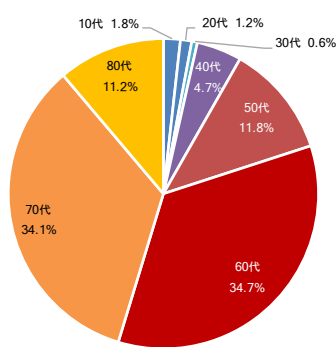


世代別に意見をまとめないと埋没してしまう！



回答者属性（職業）

農業従事者の年代構成（割合）



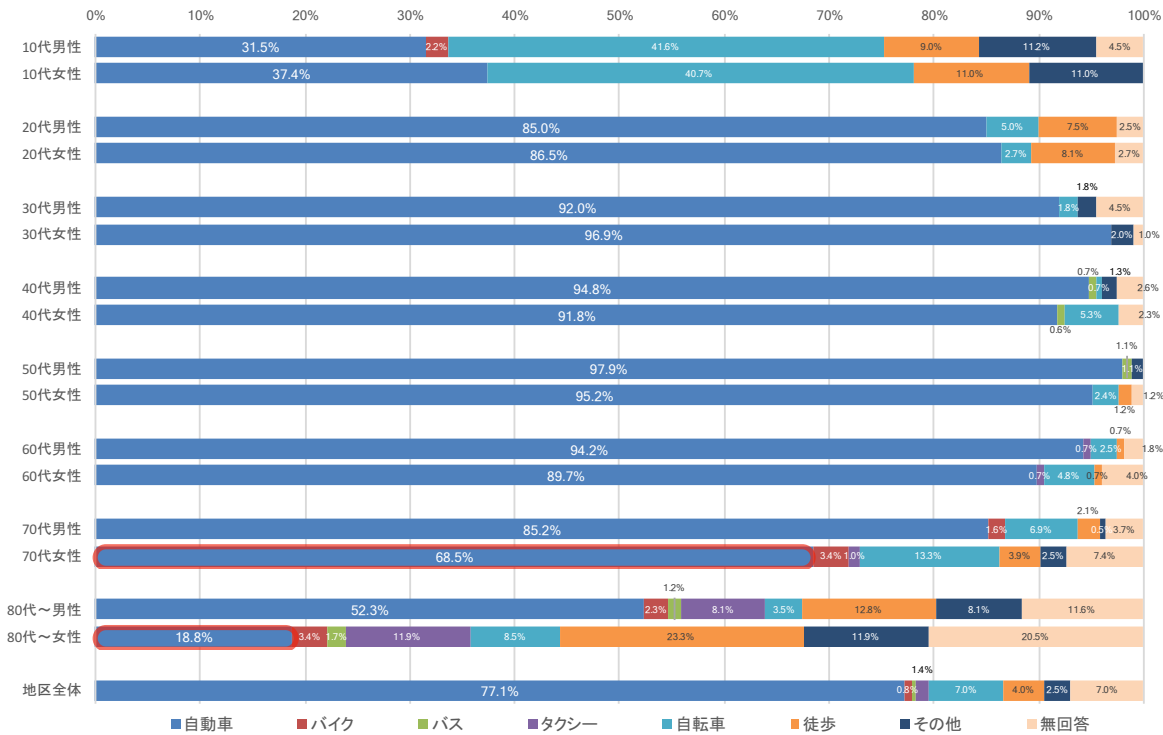
農業従事者の年代構成（人数）

年代	人数
10代	3
20代	2
30代	1
40代	8
50代	20
60代	59
70代	58
80代	19
計	170

農地の維持管理はどうなりますか？

農業従事者の80.0%が60代以上 → 20年後は60人程度!?

# 年代別・男女別の日常的な交通手段



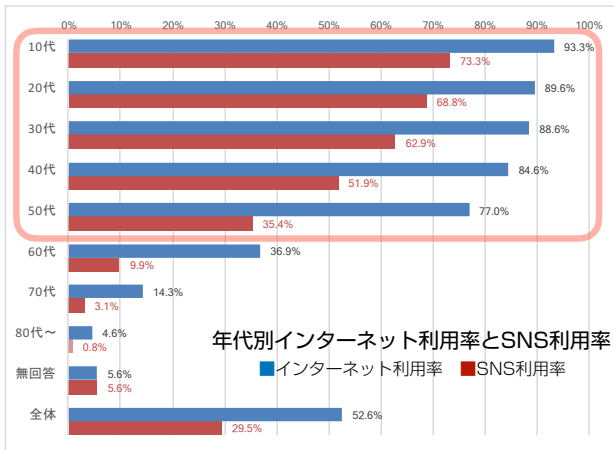
日常生活での移動が困難になる人の数は確実に増加する

80代になると車を運転する人の割合が減少  
(70代→80代: 男性32.9%↓、女性49.7%↓)

(要確認) 80代女性の運転免許保有率

# インターネットの利用割合

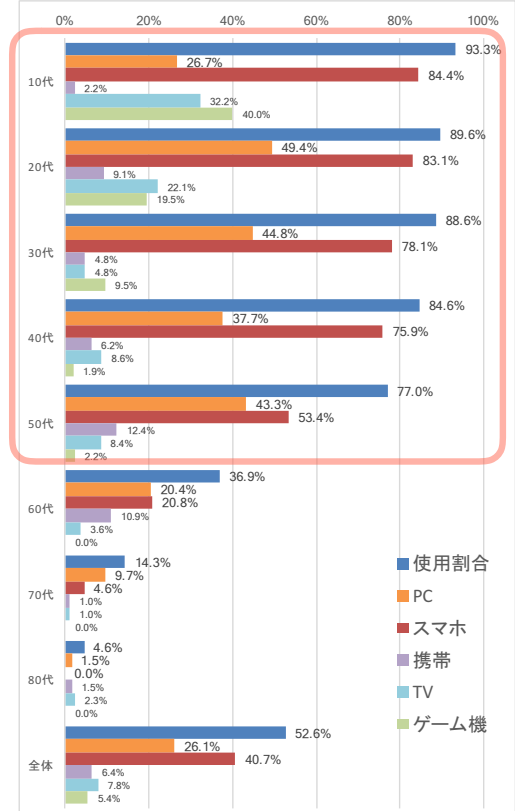
年代別インターネットの利用率



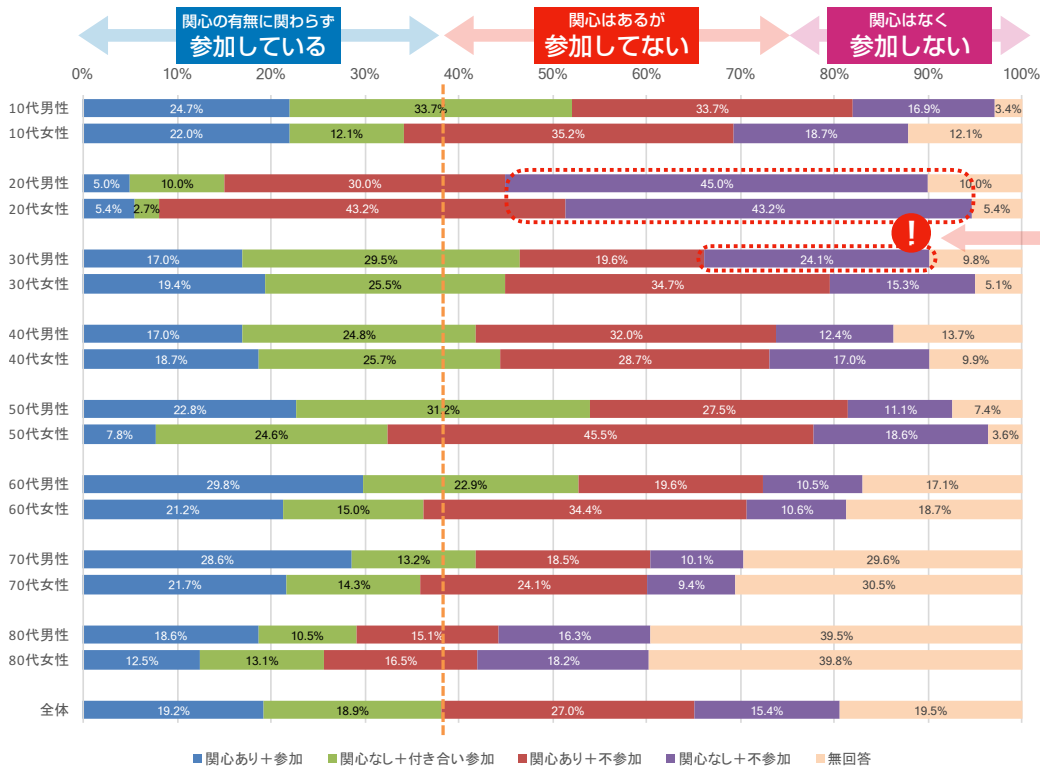
- 全体の半数以上がインターネットを利用。
- **50代以下は約8割**がインターネットを利用。(30代以下は約9割)
- **大半がスマホ・携帯**で利用しており、若い世代ほどその割合は高い。
- 30代以下は**3人に2人以上がSNS**を利用。

50代以下はインターネット経由での  
情報伝達の方が効果的?!

年代別インターネット利用における使用機器



# 地域活動への関心



**【注意！】**  
20代は男女ともに、「関心は無く、参加したいと思わない」の割合が他の世代に比べて極端に高い！

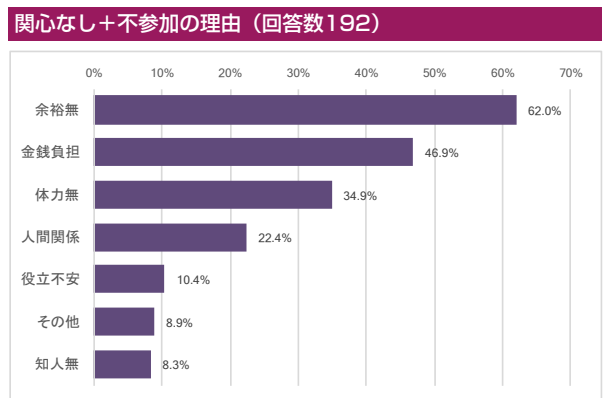
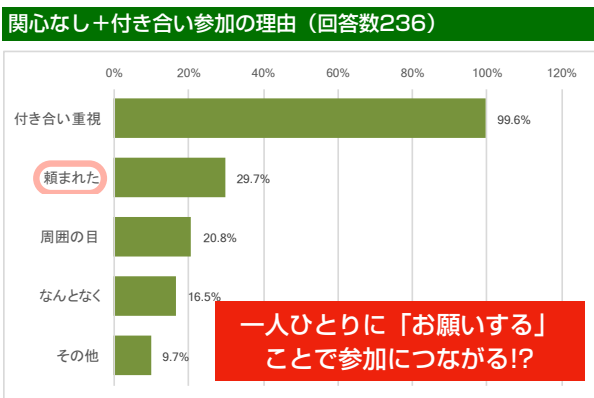
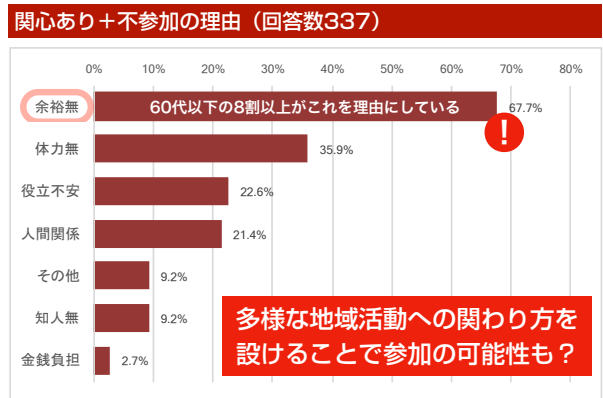
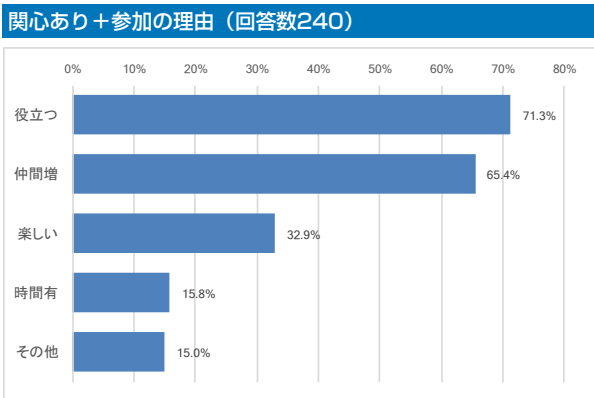
20代男性：45.0% (全世代で1位)  
20代女性：43.2% (同2位)  
30代男性：24.1% (同3位)

↓  
**将来的に大丈夫か？**

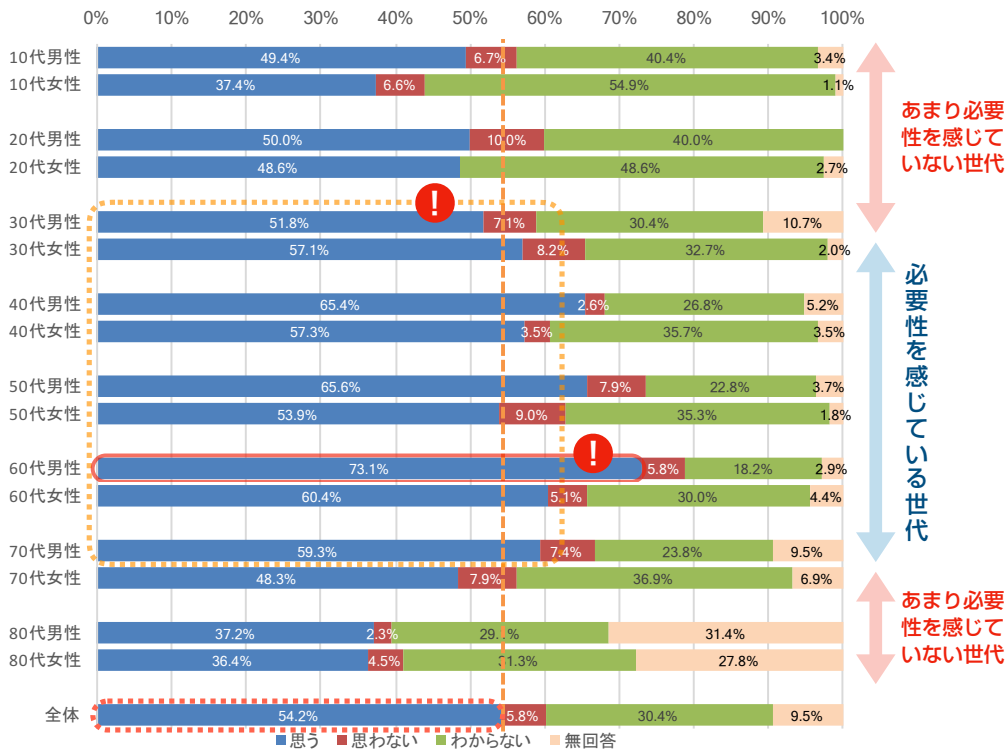
- 10代女性 (35.2%)
- 20代女性 (43.2%)
- 30代女性 (34.7%)
- 50代女性 (45.5%)
- 60代女性 (34.4%)
- 10代男性 (33.7%)
- 20代男性 (30.0%)
- 40代男性 (32.0%)

**必ずしも「地域活動に参加していない＝関心がない」という訳ではない**  
「関心があっても参加していない」割合が高い世代には、その理由を探ることが大切！

# 地域活動への関心 (それぞれの理由) ※複数回答



## 女性・若者の声を反映する必要性 (年代別×男女別)



あまり必要性を感じていない世代

必要性を感じている世代

あまり必要性を感じていない世代

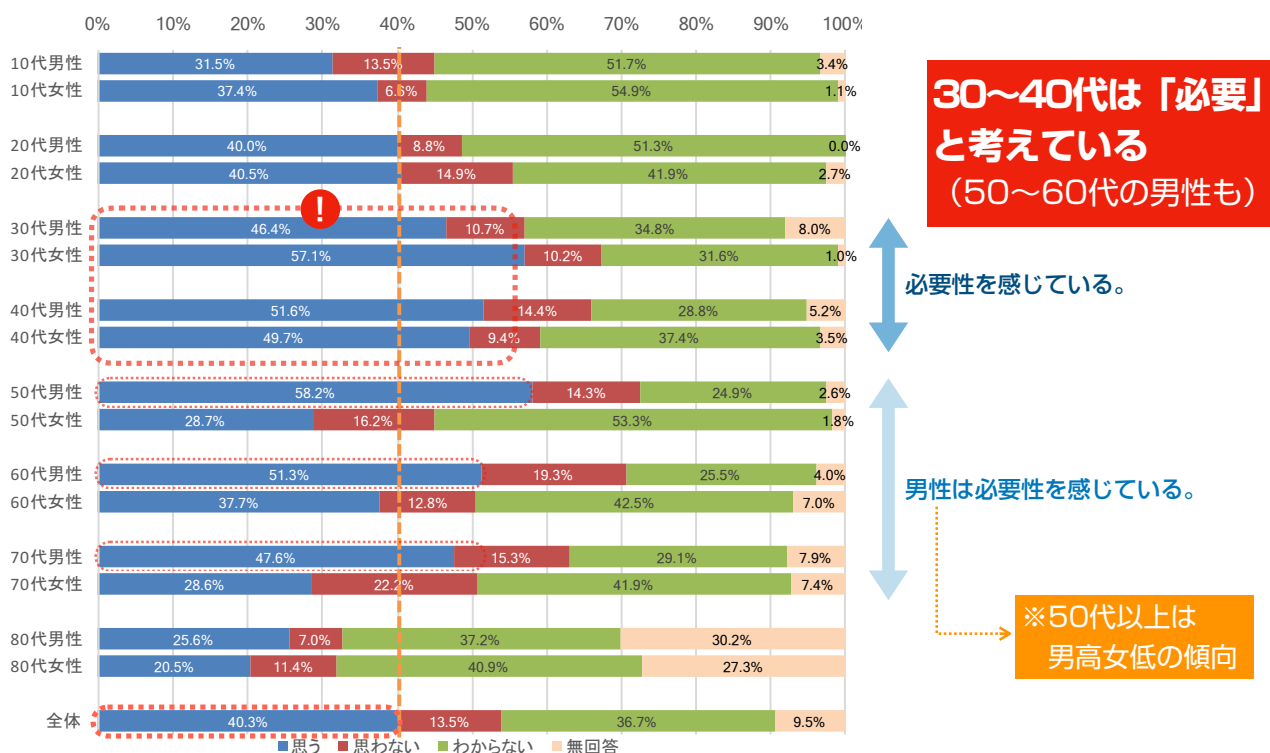
役員を担っている世代 (60代男性) は「必要」と考えている割合は7割超。

30代以上は「必要」という割合が半数以上

声を反映させる場・機会の充足が求められている!

地域全体では半数以上が「必要」と考えている。

## 定住受入の必要性 (年代別×男女別)



30~40代は「必要」と考えている (50~60代の男性も)

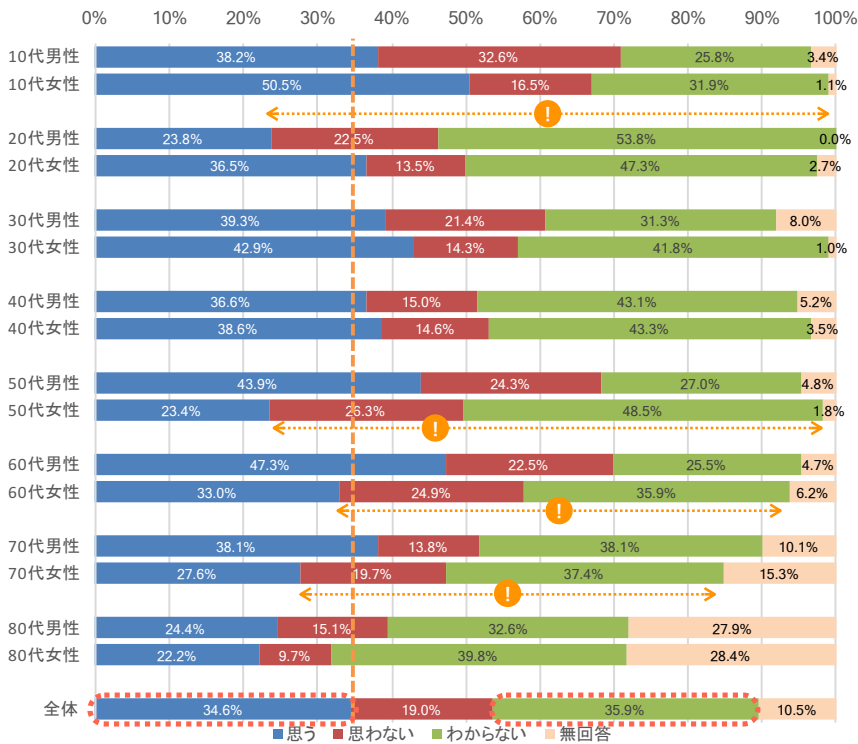
必要性を感じている。

男性は必要性を感じている。

※50代以上は 男高女低の傾向

地域全体では4割が「必要」と考えている。

## 他地域との交流の必要性 (年代別×男女別)

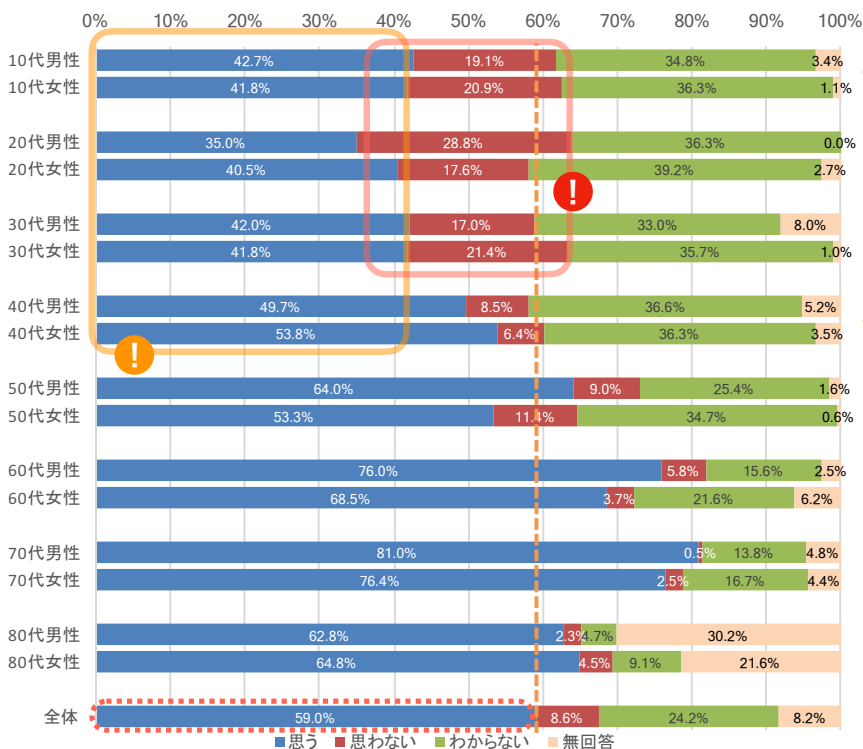


必要性を感じている割合が  
地区平均よりも高い世代

20代男性と  
50代以上の女性は、  
「必要性を感じていない」  
「わからない」の割合が高い

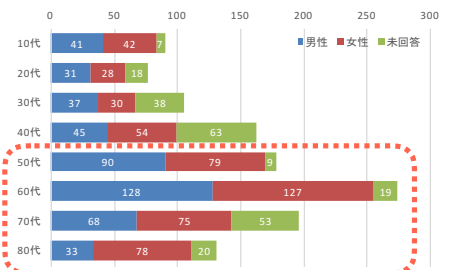
地域全体では1/3以上が「わからない」と回答。  
「必要」という考えもほぼ同じ割合。

## この地域に住み続けたいと思うか？ (年代別×男女別)



「思わない」の  
割合が比較的高い世代  
※特に20代男性

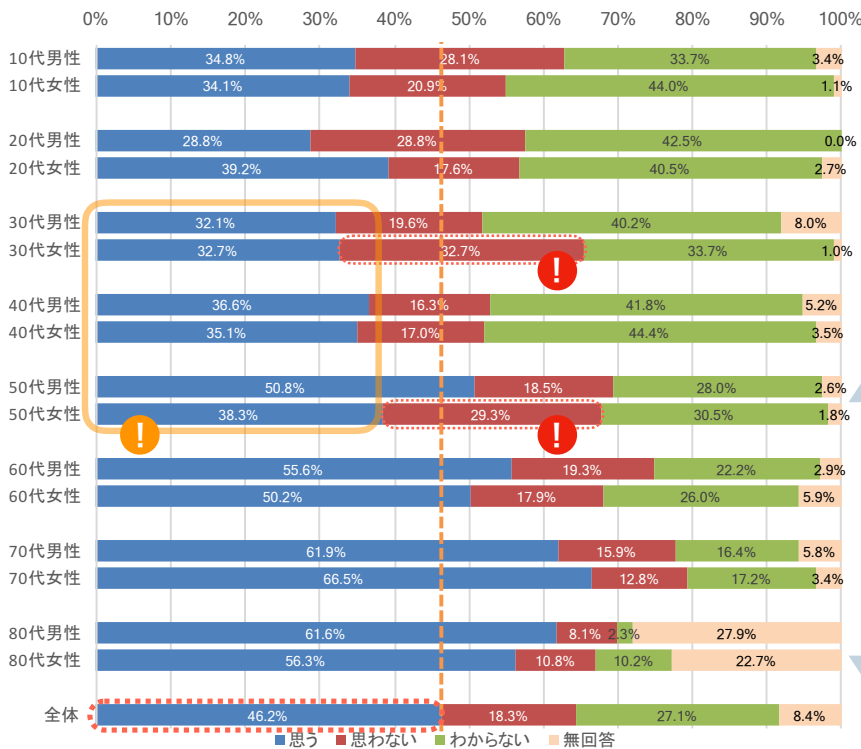
「思う」の割合が地域全体  
よりも低い世代



地区全体では「住み続けたいと思う」は約6割

← 多数派の意見が色濃く反映された結果

# 自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？（年代別×男女別）



「わからない」が多い世代

子育て中の親世代（30・40代および50代女性）の「住み続けてほしい」の割合が地区平均以下

30代・50代の女性は「住み続けてほしいとは思わない」と回答した割合が約3割

「住み続けてほしい」が多い世代

【注意！】  
このままだと、人口減少（流出）は進行しつづける可能性があるのでは？

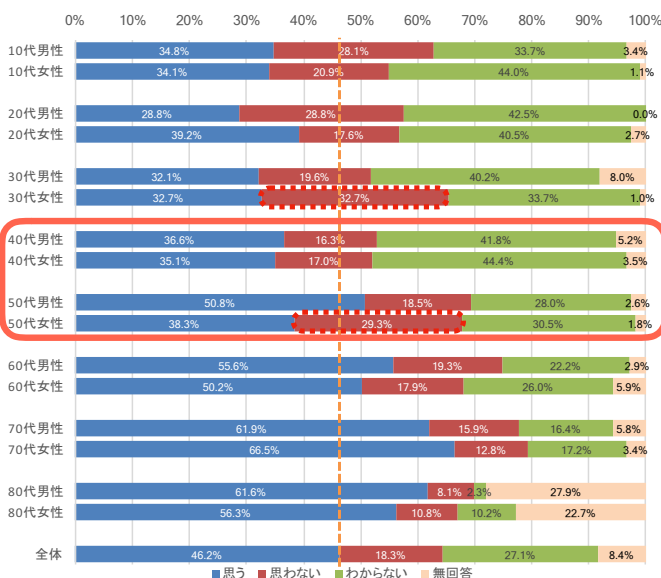
地域全体では「住み続けてほしい」が46.2%

40代以下は「思わない」+「わからない」が上回っている

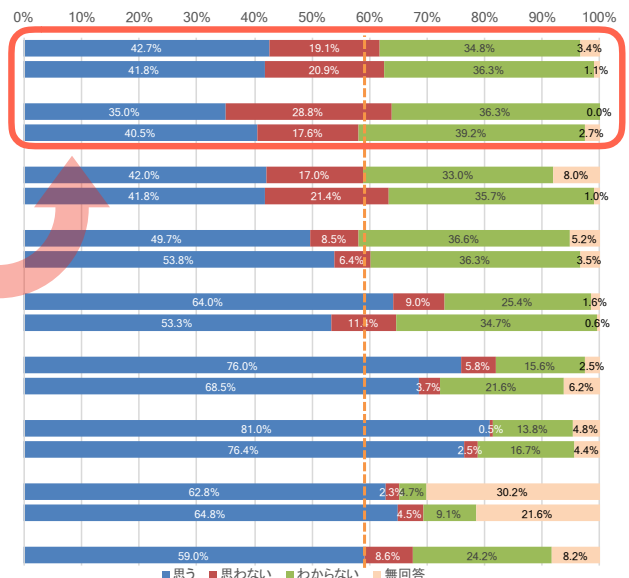
子育て中の親世代（30・40代および50代女性）の「住み続けてほしい」の割合が地区平均以下

40代以下：「思う」の割合が地区平均以下に  
30代以下：「思わない」の割合が上昇

## 自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？（年代別×男女別）

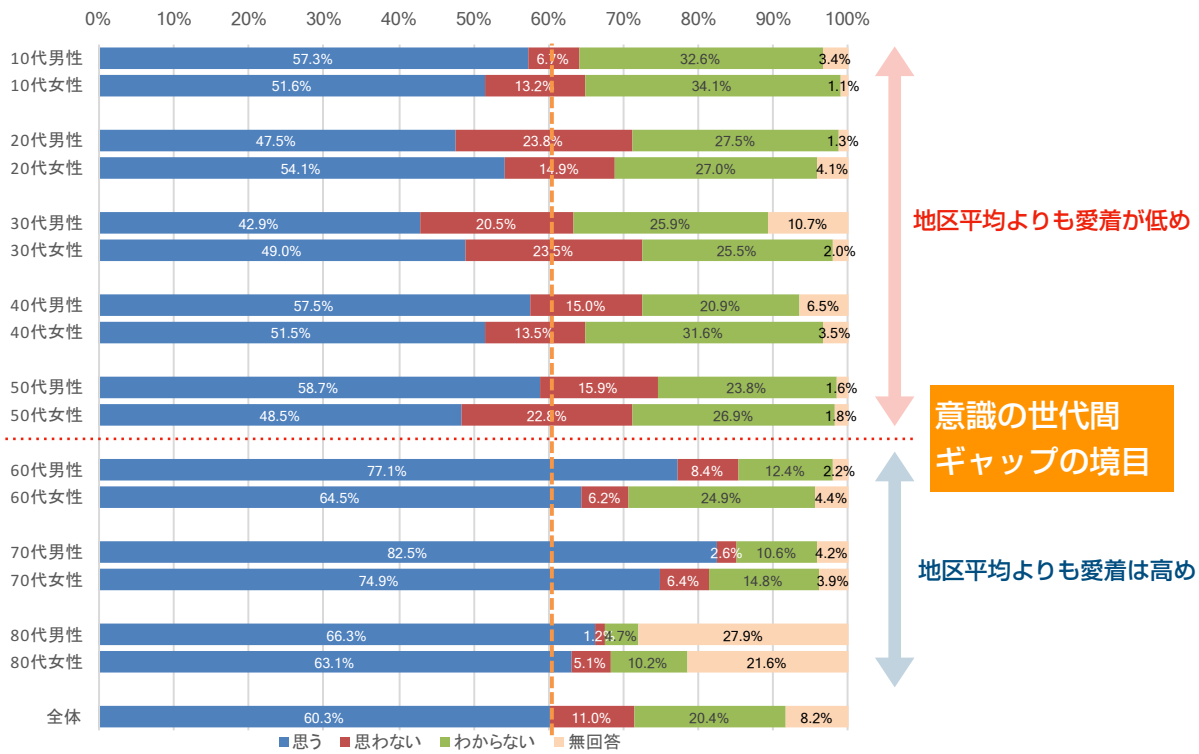


## この地域に住み続けたいと思うか？（年代別×男女別）



親世代の考えが、子に影響している可能性はありますか？

# 地域への愛着の有無 (年代別×男女別)



世代間のギャップも大きくはない

地区平均よりも愛着が低め

意識の世代間  
ギャップの境目

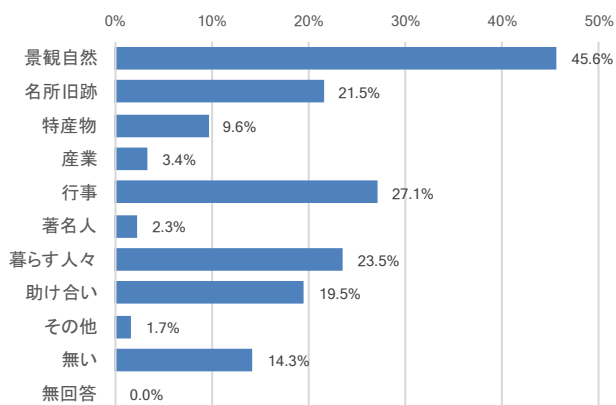
地区平均よりも愛着は高め

「愛着がある」は60.3%

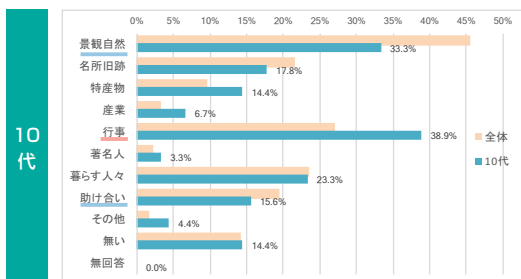
決して低い数値ではない！

# 誇りに思う地域資源は何か (10~40代)

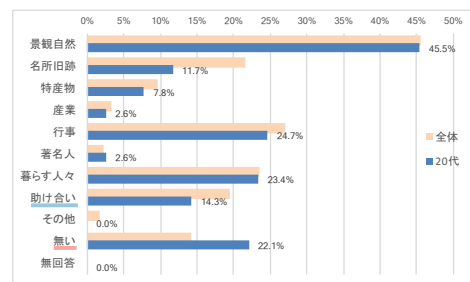
地区全体 (複数回答)



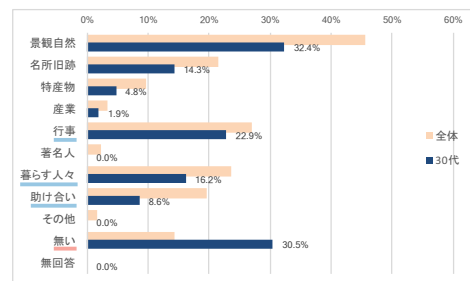
— 地区平均よりも高い  
— 地区平均よりも低い



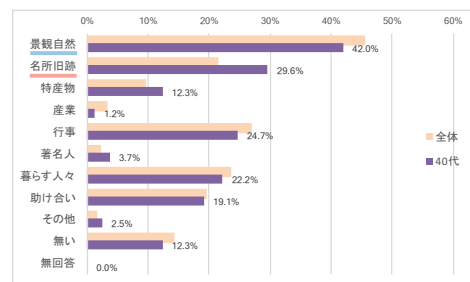
20代



30代



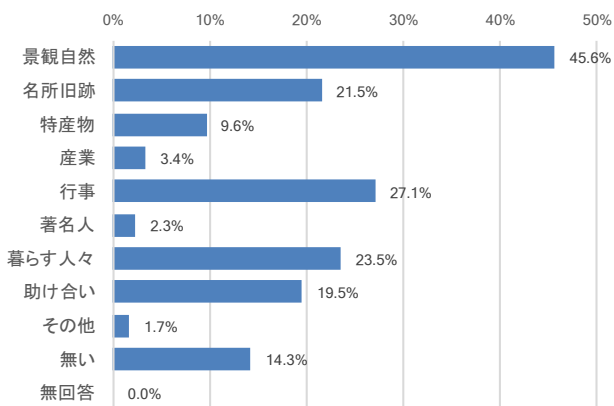
40代



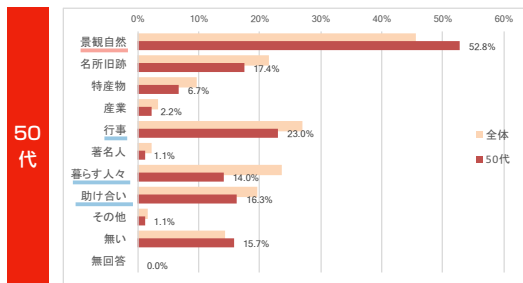


# 誇りに思う地域資源は何か (50代~)

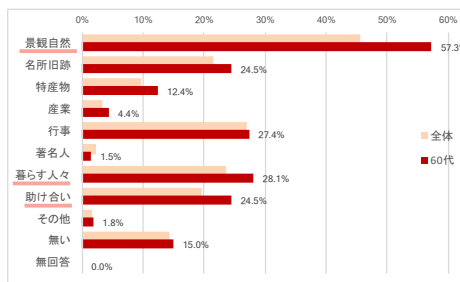
地区全体 (複数回答)



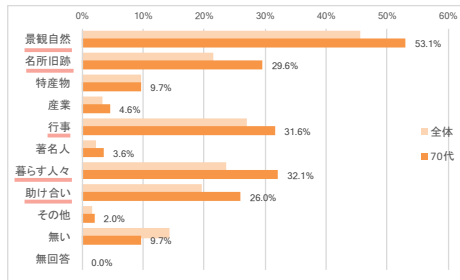
— 地区平均よりも高い  
— 地区平均よりも低い



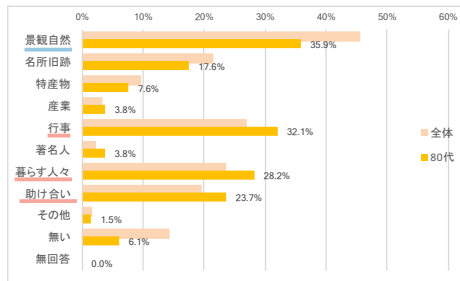
60代



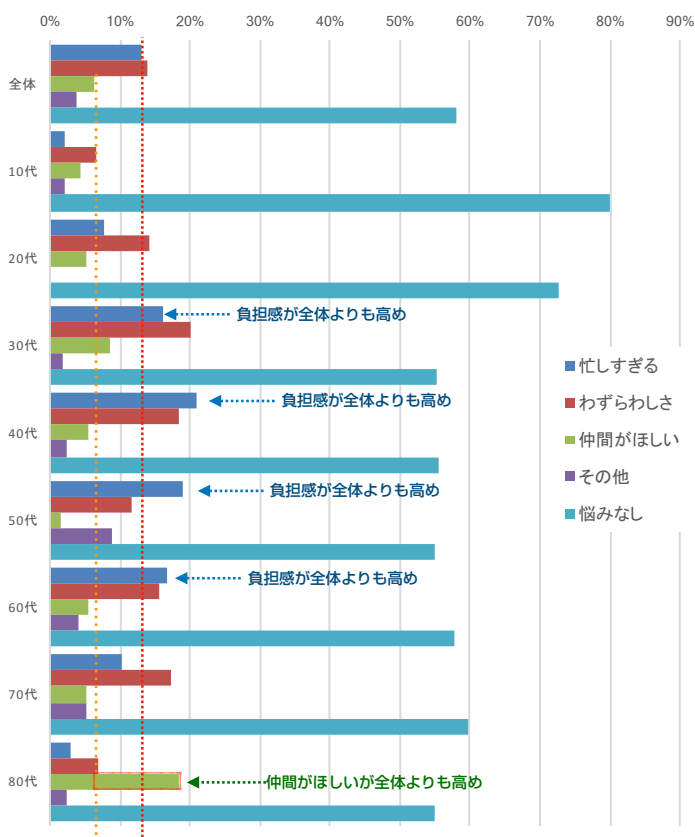
70代



80代

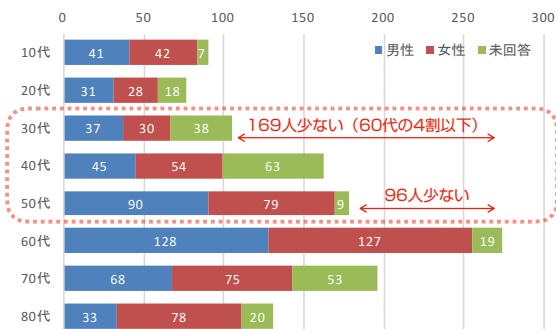


# 近所づきあいでの悩み



- 全体の6割近くが「悩みなし」
- 30~60代は「忙しすぎる」という悩みが、80代は「仲間がほしい」という悩みが、全体平均よりも高い。

人は減っているのに、役割・仕事量が変わってなければ、負担感が増すのは当然のこと。今後、さらに人の数は減っていく。このままでは回らなくなるのでは？

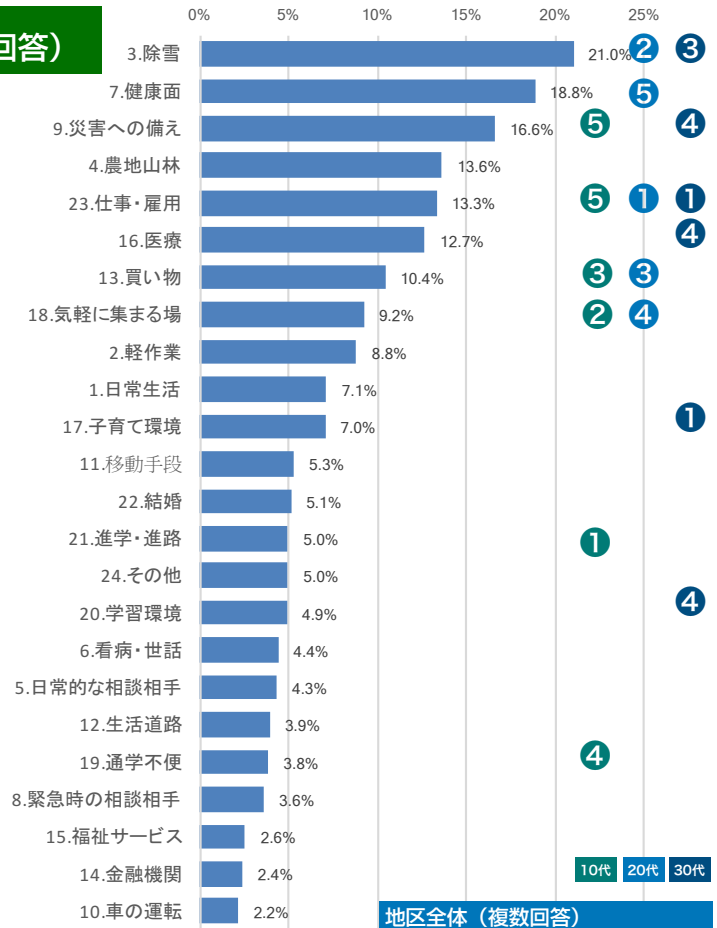


# 暮らしの中の困りごと（複数回答）

10代	
1 進学・進路	31.1%
2 仲間と気軽に集まる場所がない	20.0%
3 コンビニ・商店が少なく、日常の買い物に不便	18.9%
4 学校が遠く、通学が不便である	13.3%
5 災害への備えや避難	10.0%
仕事・雇用	10.0%

20代	
1 仕事・雇用	26.0%
2 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	22.1%
3 コンビニ・商店が少なく、日常の買い物に不便	20.8%
4 仲間と気軽に集まる場所がない	15.6%
5 健康面への不安がある	14.3%

30代	
1 少子化による遊び相手の確保など子育て環境	25.7%
仕事・雇用	25.7%
3 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	18.1%
4 災害への備えや避難	15.2%
病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	15.2%
小学校・中学校が少人数であり、学習面の競争が少ないので不安なこと	15.2%



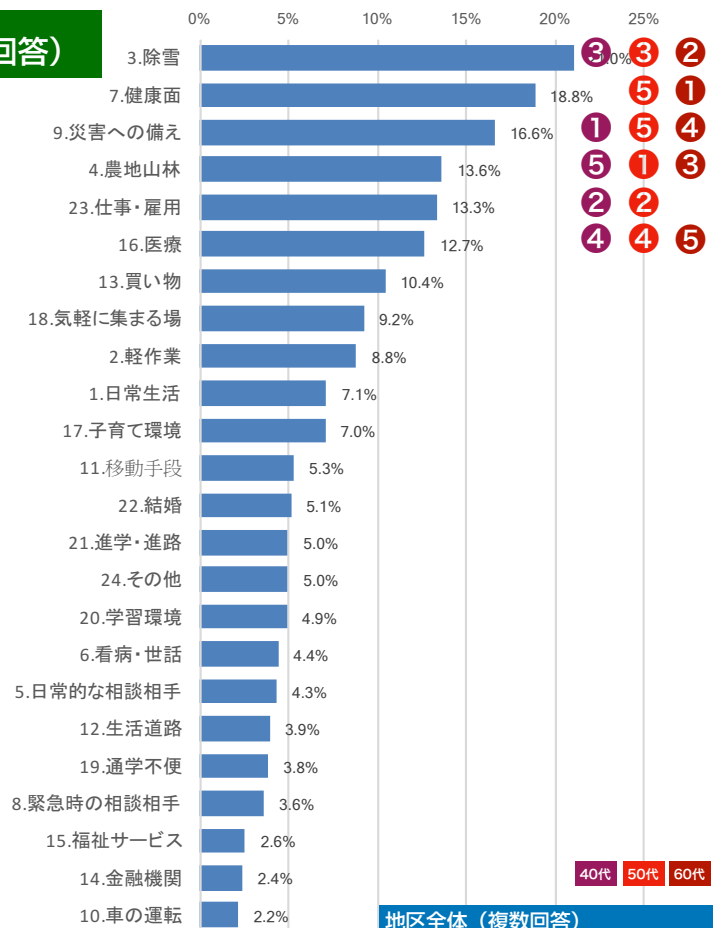
地区全体（複数回答）

# 暮らしの中の困りごと（複数回答）

40代	
1 災害への備えや避難	24.7%
2 仕事・雇用	23.5%
3 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	21.0%
4 病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	18.5%
5 農地、山林の維持管理	13.6%

50代	
1 農地、山林の維持管理	21.3%
2 仕事・雇用	20.8%
3 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	20.2%
4 病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	17.4%
5 健康面への不安がある	16.3%
災害への備えや避難	16.3%

60代	
1 健康面への不安がある	22.6%
2 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	22.3%
3 農地、山林の維持管理	20.4%
4 災害への備えや避難	15.7%
5 病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	14.2%

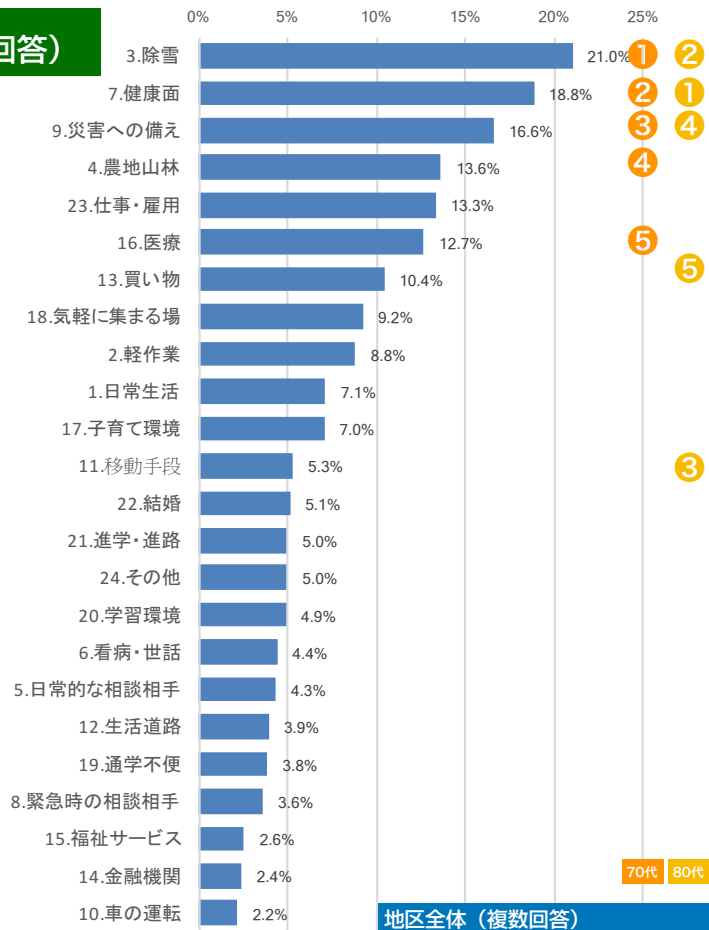


地区全体（複数回答）

## 暮らしの中の困りごと（複数回答）

70代	
1	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪 32.1%
2	健康面への不安がある 31.1%
3	災害への備えや避難 19.9%
4	農地、山林の維持管理 13.8%
	病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる 13.8%

80代	
1	健康面への不安がある 32.8%
2	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪 20.6%
3	買い物・通院などの移動手段（交通手段） 19.8%
4	災害への備えや避難 16.0%
5	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便 13.0%



## 暮らしの中の困りごと（まとめ）

**第1位 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪 21.0%**

70代でトップ（20代以上はどの世代でも2位もしくは3位）

→ほぼすべての世代で上位にランクイン

**第2位 健康面への不安がある 18.8%**

60代以降になると上位にランクイン

→自分の健康について不安視している人が多い

**第3位 災害への備えや避難 16.6%**

40代はトップ

70代は第3位

→ほぼすべての世代で上位にランクイン

60・80代は第4位

**第4位 農地や山林の維持管理のこと 13.6%**

40代以降になると上位にランクイン →30代以下の関心は低い

# 暮らしの中の困りごと (まとめ)

全体での順位は高くはないが、若者・中堅世代特有の困りごと

トップ3には入っていないが、要注意な困りごと

**第5位 仕事・雇用に関すること。 13.3%**

20~50代ではこれが上位にランクイン (1位もしくは2位)

**第6位 医療体制に不便を感じる。 12.8%**

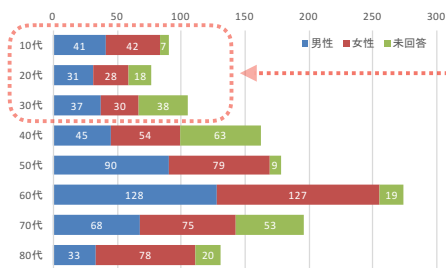
30~70代ではこれが上位にランクイン

**第8位 仲間と気軽に集まる場所がない。 9.2%**

10~20代で上位にランクイン (20代では第2位)

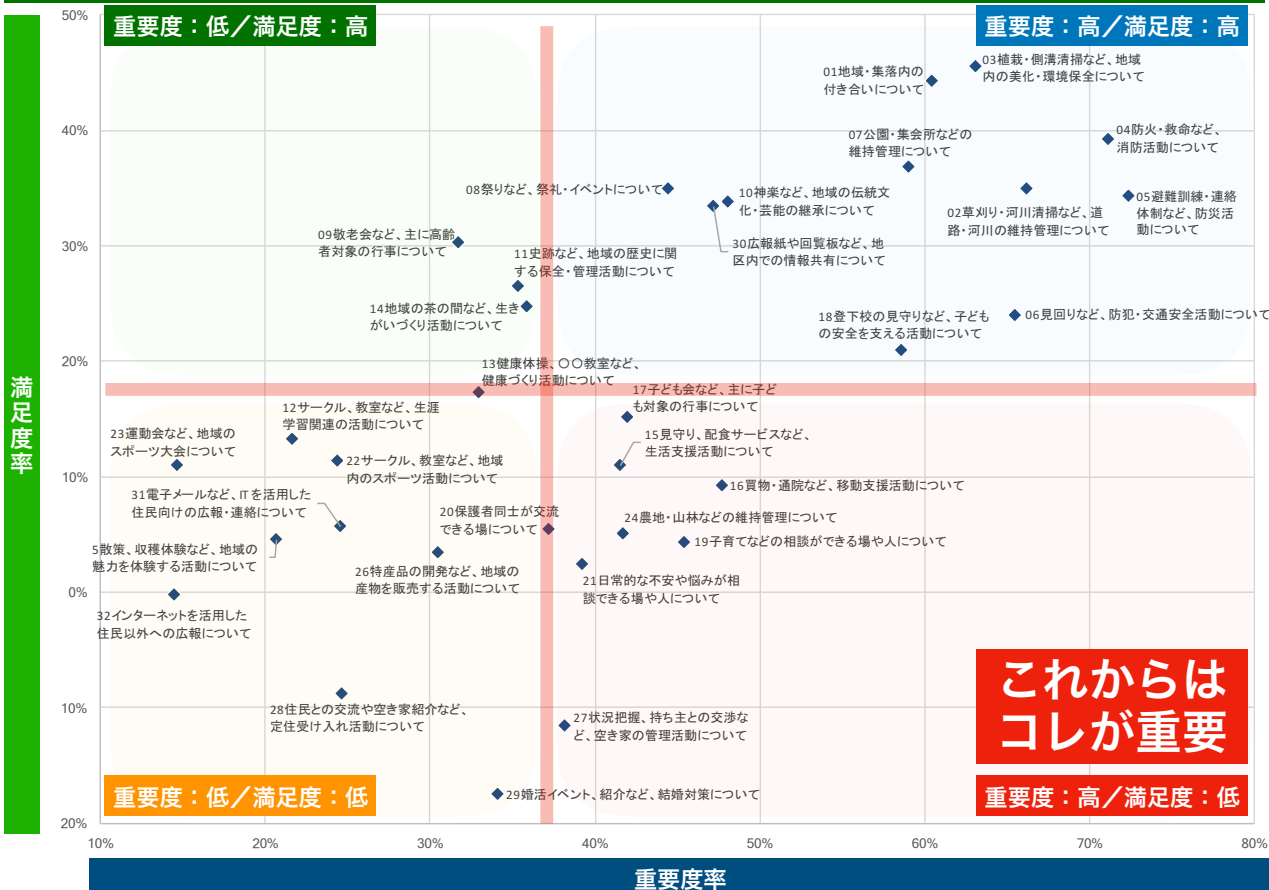
**第7位 買い物・通院などの移動手段 (交通手段) 。 10.4%**

80代のみこれが上位にランクイン

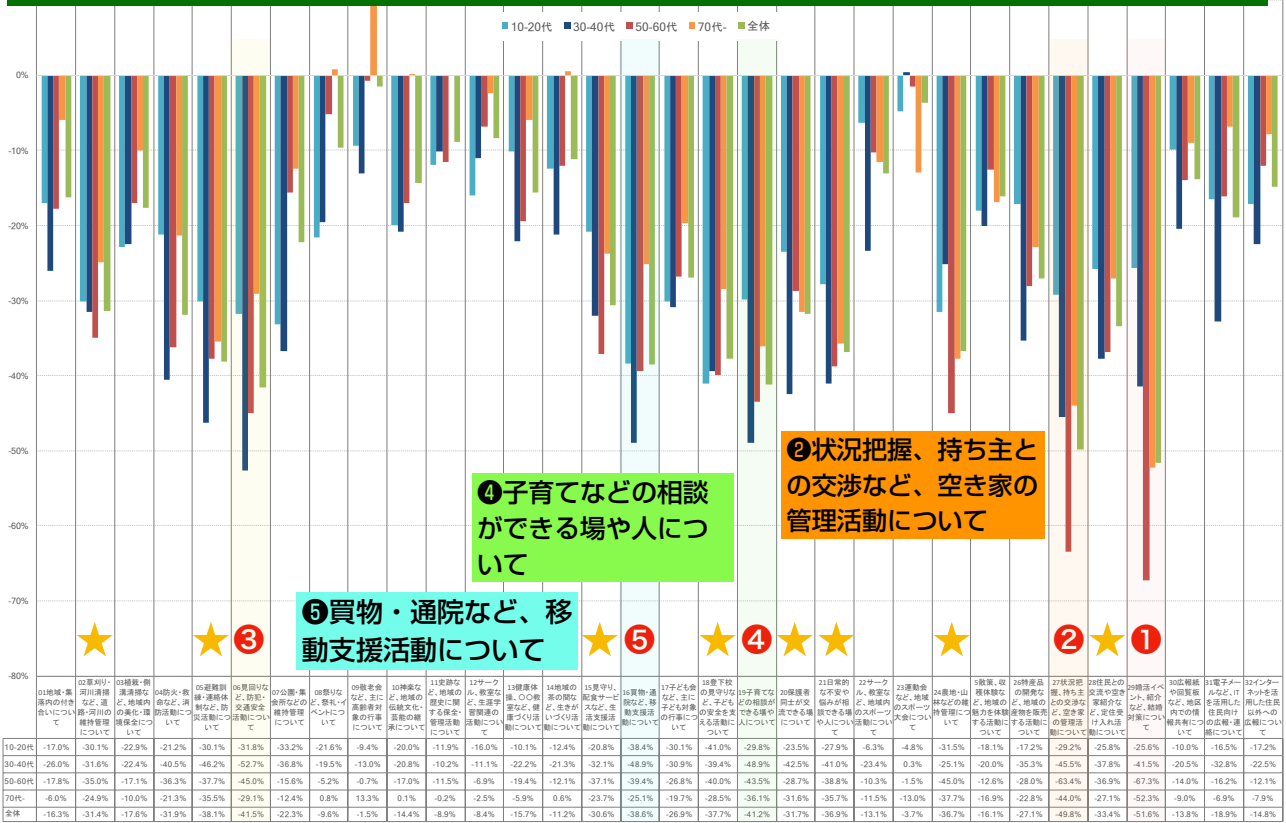


若者・中堅世代は少数派。多数決では年配層には叶わない。世代別に意見をまとめないと埋没してしまう！

# 取り組みの満足度と重要度



# 取り組みの満足度と重要度の評価（年代別）



④見回りなど、防犯・交通安全活動について

①婚活イベント、紹介など、結婚対策について

※グラフが下に伸びているほど、満足度と重要度のギャップがある（＝現状では満足しておらず、これからは重要だと思う）項目

# 取り組みの満足度と重要度の評価（まとめ）

◎将来を見据え、これから重点的に取り組むべきだと考えられている項目上位5つ

## ①婚活イベント、紹介など、結婚対策について

50代以上は圧倒的に将来に向けてこれが大切だという評価。

## ②状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動について

30～60代はこの必要性を強く感じている。

## ③見回りなど、防犯・交通安全活動について

30～40代は特に最もこれを求めている。

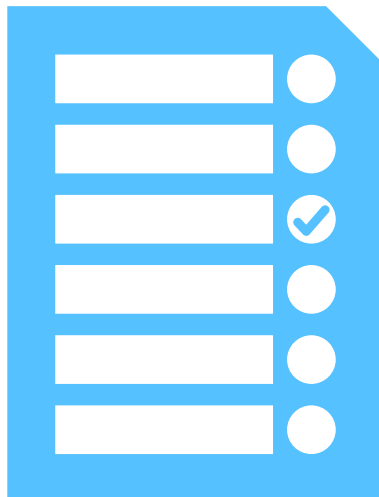
## ④子育てなどの相談ができる場や人について

30～40代は特にこれを求める傾向が強い。

## ⑤買物・通院など、移動支援活動について

30～40代はこの必要性を強く感じている。

◎将来を見据え、力を入れていくべきだと考えられている項目



【30～60代が重要だと思っているもの】

★避難訓練・連絡体制など、防災活動について

★見守り、配食サービスなど、生活支援活動について

★登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動について

★保護者同士が交流できる場について

★住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動について

【50代以上が重要だと思っているもの】

★農地・山林などの維持管理について

【すべての世代で重要だと思っているもの】

★草刈り・河川清掃など、道路・河川の維持管理について

★日常的な不安や悩みが相談できる場や人について

## アンケート結果から見えるポイント①

☑農業従事者の80.0%が60代以上。

▶ 20年後は60人程度!?

将来的に農地の維持管理はどうする？

☑80代になると車を運転する人の割合が減少。(70代→80代 男性は32.9%、女性は49.7%減少している)

▶ 日常生活での移動が困難になる人の数は、今後、確実に増加していく。

将来への備えとして、移動支援を今から考えていく必要はあるのではないか？

☑高齢者の移動支援は、今後の重要なテーマだという認識されている。

▶ すでに80代の困りごとの上位には「買い物・通院などの移動手段（交通手段）」が上がっている。

▶ 今後取り組むべき重要テーマとしても第5位に移動支援が上がっている。

☑全体の半数以上がインターネットを利用

▶ 50代以下は約8割（30代以下は9割）がインターネットを利用しており、大半がスマホ・携帯での利用。

50代以下はインターネット経由での情報伝達の方が効果的?!

## アンケート結果から見えるポイント②

☑必ずしも「地域活動に参加していない=関心が無い」という訳ではないではない。

- ▶ 女性は10~30・50~60代が、男性は10・20・40代が、「関心はあるが参加していない」の割合が高い。
- ▶ 「関心あり+不参加」の理由の第1位は「余裕が無い」。こう回答した10~60代は、8割以上がこれを理由にあげている。
- ▶ 「関心なし+付き合いで参加」の理由では、第2位に「頼まれた」が来ている。

多様な地域活動への関わり方を設けることで参加の可能性は十分にあるのでは？

直接対話を通じて、さらに理由を深掘りしていくことが必要。

☑20・30代は、「関心は無く、参加したいとも思わない」の割合が他の世代に比べて極端に高い！

参加していない人たちの声に真摯に耳を傾ける必要があるのでは？

☑役員世代も中堅世代も、もっと女性・若者の声を反映すべきと思っている。

- ▶ 役員を担っている世代（60代男性）は「必要」と考えている割合は7割以上。
- ▶ 30代以上も半数以上が「必要」と考えている。

声を反映させる場・機会の充足が必要?!

## アンケート結果から見えるポイント③

☑移住・定住者の受け入れが必要と考えている割合は約4割

- ▶ 特に30・40代は「必要」と考えている割合が高い。

必要性は薄々感じているが、今ひとつ実感がない…という状態か？

☑他地域との交流の必要性については、地域全体では1/3以上が「わからない」

- ▶ ただし、「必要」という考えもほぼ同じ割合。

☑「この地域に住み続けたい」と考えている人の割合は全体では約6割

- ▶ ただし、40代以下は地区平均よりも低く、10・20代は「住み続けたいとは思わない」の割合が比較的高い。

☑「自分の子どもにも住み続けてほしい」と思っている人の割合は全体の4割強。

- ▶ 地域全体では「住み続けてほしい」が約4割強。
- ▶ 40代以下は「思わない」「わからない」が上回っており、子育て中の親世代（30・40代および50代女性）の「住み続けてほしい」の割合は地区平均以下。
- ▶ 30代・50代の女性は「住み続けてほしいとは思わない」と回答した割合が約3割。

このままでは、人口減少はさらに進行する可能性があるのでは？

## アンケート結果から見えるポイント④

☑「地域への愛着がある」と回答したのは約6割。

- ▶ 意識の世代間ギャップの境目は50代と60代。しかし世代間の差はあまり大きくない。



決して低い数値ではない！

☑近所づきあいについては、6割近くが「悩みなし」。

- ▶ ただし、30～60代は「忙しすぎる」という悩みが、80代は「仲間がほしい」という悩みが、全体平均よりも高い。



人は減っているのに、役割・仕事量が変わっていなければ、負担感が増すのは当然。今後、さらに人の数は減っていく。このままでは回らなくなる可能性大。

☑暮らしの中の困りごとトップ3は、

- ①屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪
  - ②健康面への不安がある
  - ③災害への備えや避難
- (次点) 農地山林の維持管理

- ▶ ただし、世代によって上位にランキングされている内容はかなり異なる。(特に若年層)



困りごとの内容をさらに深掘りしていくことが必要。

若年層は少数派であることを十分に認識し、丁寧に扱うことが求められる。

## アンケート結果から見えるポイント⑤

☑今後、重点的に取り組むべきテーマトップ5は、

- ①婚活イベント、紹介など、結婚対策
- ②状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動
- ③見回りなど、防犯・交通安全活動
- ④子育てなどの相談ができる場や人について
- ⑤買物・通院など、移動支援活動

- ▶ ただし、世代によって上位にランキングされている内容はかなり異なる。



困りごとの内容をさらに深掘りしていくことが必要。

若年層は少数派であることを十分に認識し、丁寧に扱うことが求められる。